

Q 教師は教えずに見守っていればよいのですか？

A 決して教えないということではありません。教師の役割が、一方的に「教える」だけでなく、子供たちの興味・関心を引き出したり、学びを支援したりする、いわゆる「伴走者」へ変化しているといえるでしょう。教師は、授業の中で子供たちに、「やってみたい、学びたい」と思える学びの必要感と、「失敗しても大丈夫！」という安心感を持たせることが大切です。

Q エージェンシーは幼児期から発揮されるものなのですか？

A 幼児教育施設では、幼児が自発的な活動としての遊びの中で、「やってみたいな」、「できるようになりたいな」という思いや願いを持ち、自分の力で考えたり、先生や友達にコツを尋ねたり、試行錯誤しながら挑戦したりする姿が見られます。まさに、エージェンシーを発揮している姿といえるでしょう。このような姿は、小・中・高と、さらにエージェンシーを発揮して学んでいくための基盤となります。



Q 「主体的・対話的で深い学び」とはどのような関係にありますか？

A 「主体的・対話的で深い学び」の充実には、エージェンシーの発揮が欠かせません。エージェンシーと学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）は、深く関係します。子供たちは、もともと「自分で考え、友達と話し合い、決定して、行動する力」を持っています。当事者意識を持たせ、子供中心の学びを実現することで、「主体的・対話的で深い学び」がより充実していくと考えます。

Q 「非認知能力」の育成とは関連がありますか？

A 群馬県では、非認知能力の育成に向けた研究を進めています。テスト等で点数化できる認知能力に加えて、「失敗を恐れない心」や「人と関わる力」、「自分で考え、行動する力」等、客観的な点数にしにくい非認知能力を伸ばすことは、子供たちが持っている力を最大限に発揮するために大切です。非認知能力は、先生方が、これまで授業や学校行事、部活動等、様々な場面で、子供たちを温かく励ましながら育ててきた力です。非認知能力を伸ばすことは、エージェンシーを発揮するために必要な要素の一つだと考えます。



Q 特別な支援や配慮を必要とする子供たちの学びには、どのようなことが大切ですか？

A 子供たちの的確な実態把握に基づき、学習集団や児童生徒の特性に応じた学習環境を整備し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を充実させることで、子供たち自身の「もっとやりたい」という気持ちを引き出すことが大切です。障害の有無、国籍、性差等に関わらず、全ての子供たちが互いに学び合い、高め合うために必要な支援や配慮を行うことが重要です。

<参考資料>

- 「教育振興基本計画（リーフレット）」〈文部科学省〉
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」〈中央教育審議会〉
- 「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」〈OECD〉



「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」はこちら →

エージェンシーを発揮する

「自律した学習者」へ

～「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」の実現に向けて～

幼児教育施設から高等学校まで、全ての学校園で取り組みます！

自分で学びをつくと楽しいね



知らないことを知るのうれしいよ

違う考えがあるから面白いね

失敗してもいい自分の言葉で話そう



社会をつくるのも変えていくのも誰かじゃなくて自分たちなんだ



学校生活の中で、写真のような子供たちの姿が現れるといいですよ。そのためには、子供たち一人一人がエージェンシーを発揮する自律した学習者になっていくことが大切です。

エージェンシー？カタカナで分かりにくいな。自律した学習者？また新しいことをしなければいけないの？

でも、実際は、こんな感じの子が多いな…



間違えているかもしれないから黙ってしよう。言われたことだけやればいいや。

エージェンシーとは、「人が誰も生まれついて持っている自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力」です。学ぶ内容は、幼稚園教育要領や学習指導要領に示されている内容であり、これまでと変わりません。今、私たち教師に必要なのは、子供たち自身の力を信じ、学びの転換を図ることです。

一斉型の講義を受けるだけの受動的な学び



能動的で他者と協働した学び（主体的・対話的で深い学び）

《取り入れたい場面》



子供たちの力を信じるということは、学習の進め方や方法を全て任せて、教師は放任するという意味ではありません。問題を解決していく学びの中で、右に示した場面を意図的に取り入れていくことが大切です。詳しくは見開きをご覧ください。

私たち教師もエージェンシーを発揮し、新しい物事に前向きに取り組み、チャレンジする姿勢や、変わりゆく状況に柔軟に対応できる資質・能力を身に付けていきましょう。

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！



● 群馬県教育委員会 平田郁美教育長からのメッセージ ●

子供たちは、生まれながらにして自分と社会をより良くしようと願う意志を原動力にして、爆発的に成長しようとする力を持っています。この力を生かした教育の実現に向けて、失敗を恐れず、試行錯誤しながら取り組んでいきましょう。



メッセージ動画はこちら

令和6年3月 群馬県教育委員会
（エージェンシーを発揮するための学びを推進するリーフレット）

